

「地域キャリア教育支援協議会設置促進事業」実施報告書

1. 実施主体	
本事業を受託し、協議会の核となる自治体、もしくは経済団体等名	三重県教育委員会
2. 現状及び課題	
地域内でのキャリア教育に関する現状	三重県では、子どもたちが働くことや職業についての理解を深め、将来自立した社会人として積極的に社会に参画できるよう多様な主体と連携し、キャリア教育を推進している。「三重県版ようこそ先輩」では様々な職業人を学校に招いて授業を行い、「しごと密着体験」では子どもたちが働く人に密着し、間近で働く姿を観察することで、仕事に対するイメージを広げるように取り組んでいる。地域の事業所と連携してインターンシップ等を推進し、キャリア教育をとおして子どもたちの学ぶ意欲を高め、働くことや職業についての理解を深める機会を設けている。
地域内でのキャリア教育に関する課題	子どもたちの成長・発達を支え、社会的・職業的自立を促すためには、小・中・高等学校が一貫した流れでキャリア教育を進めることが求められるが、各地域において、子どもたちの発達段階に応じたキャリア教育の到達目標や学習内容を明確化している学校は少ない状況である。子どもたちのキャリア発達を促す上で大きな成果が期待できるインターンシップ等の就業体験を充実していくことが重要であり、学校と事業所が相互理解を深め、地域でキャリア教育を円滑に実施するための仕組みづくりが不可欠になっている。
3. 委託内容に対する取組	
(1) 学校におけるキャリア教育に対する支援を目的として、地域の関係者が参画する会議体の設置及び運営	
地域の推進体制 (図などを用いて地域全体の体制が分かるように示すこと)	
	<p>●キャリア教育支援の情報共有 多様な広報・啓発</p> <p>●キャリア教育の推進に向けた 方針・役割の明確化</p> <p>●キャリア教育 支援の情報提供</p> <p>●キャリア教育 への理解促進</p> <p>●インターンシップ・職場体験 ●職場見学・工場見学 ●三重県版ようこそ先輩</p> <p>●キャリアアップセミナーの運営</p>

	団体名	役割
協議会の構成	三重県商工会議所連合会	中小企業振興、地域振興
	三重県経営者協会	企業経営、人事労務に関する情報交換
	三重県雇用経済部	若者就労支援
	三重労働局(各ハローワーク)	学卒者就職支援
	三重県産業教育振興会	産業教育振興、人材育成
	三重大学地域戦略センター	キャリアアップセミナー運営
	NPO法人アトリオ	広域公募型「しごと密着体験」運営
目標	三重の子どもたちが、働くことや職業についての理解を深め、将来自立した社会人として人生設計し、積極的に社会参画できるようにするため、経済団体や行政機関をはじめ、大学やNPO等の多様な主体が一体となって、キャリア教育推進のためのネットワークを構築し、三重県全体及び各地域において、地域の教育資源を有効活用し、学校と地域社会が積極的にキャリア教育を推進する。	
方針	三重のキャリア教育を総合的に推進するために、関係機関が一体となって連携のための環境づくりを行う本協議会において、事業所が学校に提供できるキャリア教育支援の内容を広く情報発信するとともに、協働してインターンシップ等の就業体験の拡充等に取り組む。特に、若年者の雇用をめぐる環境が大きく変化する中、子どもたちが地域・事業所の理解を深めることができる機会を積極的に創出するとともに、社会的・職業的自立に向けたスキルアップの機会を産・学が協働して設けることで地域の担い手育成を協働して進める。	
事業の自立的かつ発展的な運営体制	地域の教育力を生かして社会全体でキャリア教育の充実を図るため、三重のキャリア教育推進に向けた方針・役割を明確化し、学校にキャリア教育支援の情報を提供する。事業所にキャリア教育支援についての理解促進を図り、三重県全体のキャリア教育の推進体制を構築する。また、小・中・高・大の異なる校種間で相互に取組の理解を深め、児童・生徒・学生が交流する機会をつくとともに、学校と産業界が実践交流を行うことで、地域でキャリア教育を円滑に実施するための仕組みをつくる。	
(2)学校の教育活動に対して行われる、社会人講師の派遣や企業等が作成する一定の教育コンテンツの提供などによる支援の促進		
①支援を提案する支援提供者を開拓すること。		
<p>県教育委員会が就職支援が必要な高等学校に配置している就職支援相談員(企業OB等)が、ハローワークや商工会議所等の担当者と連携し、従業員を社会人講師として学校に派遣することや、社員研修プログラムを学校に提供することについて、多くの事業所に協力いただけるよう働きかけを行った。</p> <p>地域の雇用状況を踏まえ、求人と求職のミスマッチや早期離職の原因となっているケースがあることに留意し雇用ニーズの高い職種・業種の理解促進を図るため、地域の中小企業を積極的に開拓した。</p>		
②支援に関する提案を学校に提示すること。		
<p>教育界および産業界の関係者等がキャリア教育の魅力や、今後の方向性等に関する情報を共有するとともに、地域で子どもたちの学びと育ちの環境づくりをより一層推進するために、地域連携の重要性や次世代を見据えた人材育成の在り方について考えるためのフォーラムを2回開催した。</p> <p>○第1回 さんフェア2015キャリアフォーラムとして実施 期日:10月31日(土) 場所:県営サンアリーナ国際会議室 内容:キャリア教育の魅力とその方向性等に関する講演、本県におけるキャリア教育の取組状況、児童生徒の体験発表と関係者からの発信 参加者:143人、発表者等:22人</p> <p>○第2回 平成27年度三重県キャリア教育フォーラム 期日:2月16日(火) 場所:三重県庁講堂 内容:職場体験等受入事業所感謝状授与、キャリア教育実践報告及びグループディスカッション 参加者:202人(被授与事業所:20人、企業・関係機関:23人、市町等教育委員会:12人、小中学校教職員等:49人、高校・特別支援学校教職員等:79人、県教育委員会:19人)</p>		

③個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)。

県内9地域でキャリア教育推進地域連携会議を開催し、小・中・高等学校や企業、経済団体、行政機関等の間にネットワークを構築し、キャリア教育の具体的方策や子どもたちに身に付けさせたい力や期待することに関する意見交換を行い、関係機関も含めて、企業・学校双方が効果的なキャリア教育を実践していくためのヒントを得る場をつくることができた。

○キャリア教育推進地域連携会議(9地域) 平成27年7～8月開催

(地域)	(期日・場所)	(参加者)
志摩度会	7月29日(水) 県立志摩高等学校	20人(うち、企業3社、学校8校)
東紀州	7月31日(金) 熊野庁舎	26人(うち、企業4社、学校9校)
四日市	8月 5日(水) 四日市庁舎	22人(うち、企業5社、学校8校)
鈴鹿亀山	8月 6日(木) 県立稲生高等学校	20人(うち、企業4社、学校5校)
松阪	8月18日(火) 県立松阪工業高等学校	23人(うち、企業4社、学校9校)
伊賀	8月18日(火) 伊賀庁舎	24人(うち、企業4社、学校5校)
桑名員弁	8月19日(水) 桑名庁舎	21人(うち、企業4社、学校6校)
津	8月19日(水) 県立久居農林高等学校	23人(うち、企業4社、学校7校)
伊勢鳥羽	8月20日(木) 県立伊勢工業高等学校	22人(うち、企業4社、学校7校)

(3)学校の教育活動として校外で実施される職場見学、職場体験活動及びインターンシップ等に対する支援の促進

①インターンシップ等の実施場所として児童生徒の受入れを提案する支援提供者を開拓すること。

県立高等学校に配置している就職支援を行う相談員が、就業体験の受入事業所の開拓や就業体験実施に向けたコーディネートを行うことができた。職場体験活動及びインターンシップに加え、三重県において重点的に推進している「しごと密着体験」の受入れに協力可能な事業所を積極的に開拓するとともに、商工会議所やNPOと連携し、新たに取り組む学校や事業所に対して導入時の支援を行う体制を整えた。

②インターンシップ等に関する支援提供者の提案を学校に提示すること。

支援提供者の情報については、県教育委員会Webページの職場体験・インターンシップ受入事業所情報に情報を掲載するとともに、10月に開催した「さんフェア2015キャリアフォーラム」と2月に開催した「平成27年度三重県キャリア教育フォーラム」においてチラシを配付し、校長会や進路指導研修会等の場で積極的な活用に向けて説明を行った。

また、県教育委員会Webページの検索方法を高等学校に加え、小・中学校のキャリア教育担当者にも資料として配付し、新たな体験につながるよう取り組んだ。

③個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)。

インターンシップについては、学校ごとに取組方法が異なることから、NPO・商工会議所等のコーディネートにより学校の実態に応じた効果的な支援が実現できるように調整を図った。学校には生徒の実態に合わせた実施方法について提案するとともに、特に高等学校普通科生徒の体験機会を増やすため、「しごと密着体験」の受入れに協力可能な事業所を積極的に学校に紹介した。

(4)その他の取組

①NPO法人アトリオのコーディネートにより、三重チャレ広域公募型「しごと密着体験」「高校生インターンシップ」を行った。

○広域公募型「しごと密着体験」夏休み編

期日:8月4日(火) 参加者:小学生68人、中学生43人、高校生9人 ※36事業所

○広域公募型「高校生インターンシップ」

期日:8月17日(月)～21日(金)のうち2～5日間 参加者:5校10人 ※7事業所

○広域公募型「しごと密着体験」冬休み編

期日:12月24日(木) 参加者:小学生29人、中学生 5人、高校生 6人 ※9事業所

②伊勢商工会議所や三重大学地域戦略センターとの連携により、地域・社会の課題を主体的に考え、自分の将来に向けて視野を広げることを目的とした、中学生、高校生、大学生を対象としたキャリアアップセミナーを行った。

○地域が応援する中高生セミナーin伊勢

期日:8月6日(木) 場所:いせシティプラザ

参加校・参加人数:9校46人(中学校4校13人、高等学校5校33人)

○地域が応援するキャリアアップセミナー(環境学習編)

期日:10月3日(土) 場所:赤塚植物園

参加校・参加人数:13校61人(中学校5校28人、高等学校8校33人)

③三重県商工会議所連合会や三重労働局と連携し、学校と企業の就職情報交換会、合同就職説明会、合同就職相談会等を行い、未充足求人のある事業所や地元企業への就職に向けて積極的に働きかけを行った。

○合同就職相談会 期日:12月7日(月)

場所:三重県庁講堂 参加者:161人[生徒39人(21校)、保護者4人、
学校関係者55人(51校)、事業所48人(35事業所)、関係機関15人(11団体)]

4. 実施内容

実施時期	実施内容
平成27年6月	NPOと連携したキャリア教育実践研究に関する業務委託開始
8月	三重チャレ広域公募型「しごと密着体験」の実施(県内事業所) キャリアアップセミナーの開催(いせシティプラザ) 三重チャレ広域公募型「高校生インターンシップ」の実施(県内事業所)
10月	さんフェア2015キャリア教育フォーラムの開催(県営サンアリーナ国際会議室)
11月	キャリアアップセミナーの開催(赤塚植物園)※環境学習版 第1回キャリア教育支援協議会連絡会議の開催(県吉田山会館 2階第204会議室)
12月	合同就職相談会の開催(三重県庁講堂) 三重チャレ広域公募型「しごと密着体験」事前研修会・体験実習
平成28年1月	三重チャレ広域公募型「しごと密着体験」事後研修会
2月	小・中・高等学校のキャリア教育充実に関する調査 平成27年度三重県キャリア教育フォーラムの開催(三重県庁講堂) NPOと連携したキャリア教育実践研究に関する業務委託終了
3月	キャリア教育充実に関する調査総括 第2回キャリア教育支援協議会連絡会議の開催(三重県庁 7階第1会議室) 三重県高等学校キャリア教育実践事例集完成

5. 協議会の成果と課題

<p>※計画段階で示していた検証方法等を踏まえ、客観的・具体的に記載すること。 ※成果を踏まえた今後の課題についてもあわせて記載すること。</p>	<p>本事業の検証については、毎年公立小・中・高等学校を対象に実施する「キャリア教育充実に関する調査」のうち、次の項目について実施している学校の割合を現状(平成24・25・26・27年度)と比較したところ、全てにおいて向上している状況であった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 キャリア教育の全体計画の作成 (24年度:52.9% 25年度:72.4% 26年度:79.7% 27年度:81.8%) 2 キャリア教育の年間指導計画の作成 (24年度:44.5% 25年度:61.4% 26年度:65.7% 27年度:71.3%) 3 社会人講師を活用したキャリア教育の取組 (24年度:55.8% 25年度:63.2% 26年度:64.0% 27年度:68.7%) 4 キャリア教育に関する児童生徒の意識調査や自己評価の実施 (24年度:37.8% 25年度:44.7% 26年度:50.0% 27年度:50.3%) <p>①冊子「三重県高等学校キャリア教育実践事例集」を作成した 県内の県立高等学校におけるキャリア教育の取組23事例を紹介する三重県高等学校キャリア教育実践事例集を作成した。キャリア教育推進の必要性を理解してもらうための情報発信を積極的に行っていく。</p> <p>②さんフェアみえ2015キャリアフォーラムを開催した 10月31日、第25回全国産業教育フェア三重大会の会場である県営サンアリーナ国際会議室にて「さんフェアみえ2015キャリアフォーラム」を開催した。多様な主体が連携するキャリア教育の取組を県内外に発信することができた。 キャリア教育の拡充をすすめるには、実践事例集の配付やキャリアフォーラムの開催等、取組を発信し続けることが大切である。また、児童生徒が地域の魅力を知り、その地域で必要とされる仕事や職場があることの理解を深めるとともに、社会生活や職業生活へ円滑に移行できるようにするため、多様な主体と一体となって地域の教育資源を活用したキャリア教育を推進する必要がある。</p>
---	--